

港湾振興便り



2014. 9

第89号

*:**

目 次

*:**

- 1 ポートエッセイ —地方創生へ改造内閣に期待—
～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長） 篠田 昭～

2 トピック

- 帆船「海王丸」が初入港しました。
(石狩湾新港管理組合)
- 秋田ポートタワーセリオンでみなとパネル展を開催しました
(東北地方整備局 秋田港湾事務所)
- 「第29回東京湾クリーンアップ大作戦横浜港特別行事」を開催しました。
(関東地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)
- 「荒川・東京港“船上”親子学習会」
(関東地方整備局 東京港湾事務所)
- 太平洋の白鳥 帆船「日本丸」が館山夕日桟橋へ初寄港！！
(館山市 経済観光部 プロモーションみなと課)
- 新潟西港で「親子みなと見学会」を開催しました
(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所
新潟港湾空港技術調査事務所)
- 「海フェスタ京都～京都と結ぶ海の道～」が開催されました
(近畿地方整備局)

3 お知らせ

:

1 ポートエッセイ ―地方創生へ改造内閣に期待―

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

:

第2次安倍改造内閣がスタートした。主要閣僚を留任させ、党役員には谷垣元総裁ら重鎮を配した。「実行実現内閣」と安倍首相は強調している。

アベノミクス効果がなかなか地方に届かない現状で、最も期待されるのが「地方創生」だろう。首相自らが本部長となって「まち・ひと・しごと創生本部」を創設した。

多くの地方の悩みは人口減少と雇用の場が少ないことではないか。子どもを安心して生み育てられる仕組みと、地方が活力を持続できる働く場の創出が求められる。

子育て支援は国が力を入れていないわけではない。例えばいま新潟市民が受けている児童手当約120億円と新潟市の子育て支援を合わせて現物給付方式に変えれば、どれだけの支援ができるか、試算してみた。保育園や幼稚園は無償、子ども医療費助成は18歳まで無料、給食費も放課後児童支援も無料、予防接種も主要なものは無料にでき、まだ10億円ほど残る計算だ。

これだけの現金給付をしているのに、若いお母さん・お父さんには子育ての安心感が出ていない。それは制度に欠陥があるからで、現物給付・サービス給付に舵を切ってもらいたい。そうすれば、子育て面の雇用も地域に出てくる。

全国の地方に活気が出てくるには農業が元気になることが重要だ。農業分野で国家戦略特区の指定を受けた新潟市はニューフードバレー構想を立て、6次産業化を進めている。さらに子育てや教育に大地と農業の力を活用することにし、すべての子どもたちに農業体験と食育を味わってもらう取り組みも開始した。福祉面でも障がい者と農業が、相性が良いことが分かってきて「農福連携」が各地で始まっている。さらに「医食同源」との言葉もあるのだから、保健・医療との連携は当然だ。この4分野を加えれば10次産業化も十分に可能だ。

「里山資本主義」という本が昨年はベストセラーになった。それに倣えば「田園資源主義」も夢物語ではない。こんな各地の資源を活かして地方創生の実を挙げていきたい。

:

2 トピック

:

●帆船「海王丸」が初入港しました。

～石狩湾新港開港20周年記念イベント～

(石狩湾新港管理組合)

本年、石狩湾新港は、国際貿易港として開港20周年となる記念の年であることから、次世代を担う子供たちに港の役割を広く知っていただく機会として、8月23日（土）、24日（日）に記念イベントを開催しました。

会場となる西ふ頭には世界最大級の帆船「海王丸」（2,556トン）が初入港し、「海の貴婦人」と呼ばれる優雅な姿を一目見ようと大勢の人々が集まりました。

帆を張る操帆訓練「セイル・ドリル」では、実習生115人が声を合わせてロープを引ながら、約1時間をかけて帆を張り、多くの人々がその美しい姿を写真に収めている姿が見受けられました。また、船内の一般公開では、5,000人を超える方々にご参加をいただきました。

会場内では、普段は見ることのできないマリンウォッチングやヘリフライトによる海や空からの港の見学や、クイズ大会などのステージイベントも行われ、約31,000人もの方々にご来場いただきました。

また、同日、石狩市において、ご当地グルメの祭典「石狩まるごとフェスタ」や、企業による新商品や最新技術を紹介する「いしかり産業見本市」が同時開催され、（株）ニトリの協賛による花火大会に多くの家族連れが歓声を上げるなど、大盛況のうちに終了いたしました。



石狩湾新港に初入港した帆船「海王丸」

●秋田ポートタワーセリオンでみなとパネル展を開催しました

(東北地方整備局 秋田港湾事務所)

東北地方整備局秋田港湾事務所では、みなとオアシスの主要施設となっている秋田ポートタワーセリオンで、8月1日～20日に“みなとパネル展”を開催しました。

ポートタワーセリオンは、秋田港に立地し、近くには定期フェリーが発着するフェリーターミナルや、クルーズ船が寄港するふ頭、商業施設などがあります。セリオンには地上100mから360°見渡すことが出来る展望台があり、日本海に沈む夕陽や、市内の夜景を楽しむことができるため、秋田でも有数の観光スポットになっています。8月3日～6日には秋田竿燈祭りが開催され、合わせてクルーズ船が連日秋田港へ寄港したこともあり、パネル展開催期間中のセリオンは、多くの家族連れや県内外からの観光客で賑わいました。

パネル展では、みなとの役割や重要性を広く紹介することを目的として、秋田港の概要、みなとの役割、東日本大震災からの復旧状況などについて、分かり易く説明したパネルを20枚ほど展示しました。具体的には、秋田港が1951年に重要港湾指定を受け整備が進められてきたことや、2013年の外貿コンテナ取扱量が過去最高を更新したことなどを紹介しました。アンケートでは、「港の近くに住んでいるが、知らないことが沢山あった。」「港湾工事の仕事に興味を持った。もっと知りたい。」といった感想が寄せられました。

観光スポットとなっているセリオンでパネル展を開催したことによって、より多くの方々にみなとへの関心を持っていただき、みなとの役割や重要性について深く知っていただくことが出来たと思います。また、アンケート結果によって、港湾工事やみなとの防災への関心が高いことが分かりました。今後も、市民が求めている情報を提供することに努め、より充実した内容のパネル展を開催していきたいと思います。



みなとパネル展



秋田ポートタワーセリオン周辺



クルーズ船寄港



秋田竿燈祭り

●「第29回東京湾クリーンアップ大作戦横浜港特別行事」を開催しました。

(関東地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)

東京湾クリーンアップ大作戦は、国や自治体が行っている東京湾の清掃活動をみなさんに知ってもらい、東京湾における環境保全の向上を図るため、海の月間に合わせて実施している活動です。この活動の一環である「横浜港特別行事」を、7月26日（土）に関東地方整備局、第三管区海上保安本部、横浜市港湾局の共催で開催しました。

横浜港新港ふ頭5号岸壁にて、関東地方整備局所属の清掃兼油回収船「べいくりん」、第三管区海上保安本部所属の消防船「ひりゆう」の船内見学や横浜市所属の清掃船の展示及び環境啓発のパネル展示等を行いました。大変な猛暑の中でありましたが、131名の方が「べいくりん」の船内見学をされました。

「べいくりん」の船内見学と共に、「べいくりん」で実際に行っている大型ゴミ回収のデモンストレーション、回収したゴミの展示等を行いました。当日実施したアンケートでは、「イベントに参加し、東京湾をきれいにするために、日常的に気をつけようと思ったことはありますか？」の設問に対して、「ゴミは持ち帰る」「ゴミは適切に捨てる」といった回答をいただき、浮遊ゴミ回収の重要性や東京湾の環境について理解を深めていただけたのではないかと思います。

今後もこのような行事の開催等により、一層PRをしていきたいと考えています。



■ 船内でゴミ回収方法等を説明



■ 操舵室では船長から船について説明



■ 環境啓発パネル等の展示



■ クレーンによる大型ゴミ吊上げの実演

●「荒川・東京港“船上”親子学習会」

(関東地方整備局 東京港湾事務所)

8／8（金）に荒川と東京港において「荒川・東京港“船上”親子学習会」が開催され、一般公募により23名が参加しました。このイベントは、国土交通省関東地方整備局東京港湾事務所と荒川下流河川事務所の共催で、夏休みを利用し、普段とは違う船上という視点から河川や港湾を見学してもらい、その役割、仕組み、事業の内容などを学習してもらう目的で開催しているものです。

まず、荒川では水位の異なる二つの河川を行き来するための施設である「荒川ロックゲート」において「船のエレベータ」を体験しました。大きな2つの水門の開け閉めによって、船は2m近くも上昇しました。この体験を通じ、この地域がゼロメートル地帯であることを知ってもらうことで、洪水等の災害から人命や財産を守るための高規格堤防の役割や、治水対策や防災対策の重要性を学習しました。また、東京港では2012年2月に開通した東京ゲートブリッジや現在建設中の新しいコンテナターミナルの工事現場、コンテナ船の荷役作業状況を見学してもらい、普段の生活に欠かせない衣服、食料品、家具など生活物資の多くが港を通じて日本に運ばれてくる現状を知ってもらうことで、その物流を支えている港湾施設の重要性を実感してもらいました。

イベント中、東京ゲートブリッジや大きなコンテナ船を間近にし、そのスケールの大きさに多くの子供たちから驚きの声が上がっていました。

今後も多くの方に対して港湾施設や河川施設の役割や重要性を理解して頂くため、積極的に取り組んでまいりたいと思います。



コンテナ船の荷役作業



荒川ロックゲート通過体験

●太平洋の白鳥 帆船「日本丸」が館山夕日栈橋へ初寄港！！

(館山市 経済観光部 プロモーションみなと課)

9月6日(土)～7日(日)、帆船「日本丸」が館山夕日栈橋へ初寄港しました。

帆船「日本丸」の姿は、これまでも館山湾内で訓練航海の準備を行うため停泊している姿を見ることができましたが、岸壁への寄港はありませんでした。館山市では、今年で市制施行75周年の節目の年を迎えることから、その記念事業の開催に向け、積極的なポートセールスを実施した結果、館山夕日栈橋への初寄港が実現しました。

6日の入港時には、地元区民による勇壮な祭囃子や大漁旗でお出迎えを行い、歓迎式典を開催しました。式典で金丸謙一館山市長は『これまでは館山湾の洋上に浮かぶ姿しか見ることができなかった日本丸は「近くて遠い存在」だったが、今日を機に「近くて近い存在」に変わった』と歓迎の挨拶を行い、日本丸寺島船長へ経済産業省と千葉県の伝統工芸品に認定されている、日本三大うちわの『房州うちわ』を寄港記念品として贈呈しました。

6日の午後には、千葉県内では初めてとなる船内見学会を実施していただき、事前に当選した参加者たちは、普段は近くで見ることのできないマストや張られたロープなどを熱心に見学し、案内をしてくれた実習生たちに質問をしていました。

7日は、地元の船乗りを目指す高校生などがシップスクールに参加して船内の実習体験を行いました。また、離岸時には岸壁に多くの方が集まり、汽笛とともに出港していく日本丸へ大きな声で「また来てください」と手を振ってお見送りをしていました。

今回、日本丸に寄港していただいたことで、県内外から多くの方に館山を訪れていただきました。今後も帆船「日本丸」をはじめとして、大型のクルーズ客船や官公庁船など多様な船舶の寄港を誘致し、館山港の活性化を図っていきたいと考えています。



①船内見学会参加者でにぎわう館山夕日栈橋



②たてやま・ポートシスターズ

(ポピーちゃん 福原未咲、いちごちゃん 福原 舞)



③帆船「日本丸」イルミネーション



④館山夕日桟橋に初寄港した帆船「日本丸」

●新潟西港で「親子みなと見学会」を開催しました

(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所

新潟港湾空港技術調査事務所)

8月6日、「親子みなと見学会」を開催しました。このイベントは、港の役割や重要性和事務所事業を知ってもらい、夏休みに港に親しむ機会として毎年開催しています。今年は、港湾業務艇「あさひ」に乗船しての新潟西港や新潟西海岸見学には33名の親子が、「水理実験場」の一般公開には73名の方が参加されました。

「あさひ」は9時30分から3便運航し、参加者は、グラブ浚渫船の迫力ある浚渫作業や第二西防波堤の嵩上げ工事の様子を見たり、タイミング良く、大型浚渫兼油回収船「白山」と港内ですれ違うことのできた便では、艦橋から手を振る「白山」職員に手を振り返したりしていました。また、新潟西海岸第1突堤付近では船を泊め、参加者にデッキに出てもらい、夏の海の開放感を感じてもらいました。水理実験場では、「鳴り砂」や「液状化実験」の体験や、平面水槽での造波見学を行いました。

午後には民放テレビ局の取材があり、インタビューを受けた子供達は「港について、よく知ることができた」と見学会について語ってくれました。



「あさひ」デッキにて



取材インタビューの様子



水理実験場造波見学の様子

●「海フェスタ京都～京都と結ぶ海の道～」が開催されました

(近畿地方整備局)

全国の主要港湾都市で海に関する国内最大のイベントとして開催される「海フェスタ」が、本年は、京都府下の5市2町（舞鶴市・福知山市・綾部市・宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町）において、7月19日（土）から8月3日（日）まで開催されました。

ここでは、海フェスタ京都における近畿地方整備局の取り組みをいくつか紹介させていただきます。

・海の総合展へのブース出展

海の総合展は海フェスタ京都のメイン事業として開催されたもので、「舞鶴港をはじめとするみなとの役割」・「舞鶴港湾事務所の事業紹介」・「海洋環境整備事業の紹介」・「みなとオアシスの紹介」といったテーマで作成したパネルの掲示、海面清掃兼油回収船「Dr. 海洋」・「海和歌丸」・「クリーンはりま」の模型及びガントリークレーンの操作体験模型の展示を行いました。なかでもガントリークレーンの操作体験は、岸壁に横付けされた船からコンテナに見立てた荷物を降ろすもので、荷降ろしに成功した際は歓声が上がるなど注目を集めていました。



・海面清掃兼油回収船「Dr. 海洋」の一般公開

7月19日（土）、20日（日）に開催し、「船内公開」、「海洋環境整備事業の紹介パネルの展示」及び「海水淡水化装置のデモンストレーション」を行い、約1,200人の方が訪れ、船の構造（双胴構造）、海面清掃兼油回収船を国が自ら所有し運航も行っていること、神戸港から関門海峡を經由し2日半をかけて舞鶴港に到着したこと、などに驚きの声があがっていました。



